東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

2018 年 第 8 回 情 報 交 換 会

日時：2018 年 12 月 26 日（水）14:00～

【発表内容】

1. 学生起業家グループ 『hyoi(ヒョーイ)』「ビジネスモデル発見＆発表会 東北大会」にて最優秀賞の総務省東北総合通信局長賞と ICT ビジネス研究会キャンパス賞を受賞 （資料 1）
2. 『チーム moreE』 今年度の活動を総括＆西日本豪雨被災地へ支援金（資料 2）
3. 『Praxis』酒田市日向地区での活動報告（カフェ活動の今後） （資料 3）
4. 『酒田おもてなし隊』
   今年度の総括と新潟・庄内 DC に向けての活動について （資料 4）
5. 『情報科目合同成果発表会』を開催します （資料 5）
6. 《大学院》
   (1)大学院公開講座『国際ビジネスコミュニケーション論』 （資料 6-1）
   「英語がちょっと苦手なあなたに～英語と日本語ってどう違う？
   翻訳者の視点から、英語学習を考える：これで英語が少し身近に！」開催
   (2)大学院特別講座 （資料 6-2）
   「ハッピーキャリアを描くには～ともに考え、語り合うワークショップ～」開催
   (3)本学大学院生の滝口克典さんが書籍を出版 （資料 6-3）
7. 《東北公益文科大学 Koeki Kids Project》
   学生が遊佐小学校で授業を行います （資料 7）
8. 「地域福祉演習Ⅱ・Ⅳ」
   宮野浦小学校 5 年生を対象とした認知症サポーター養成講座の実施 （資料 8）

※次回の情報交換会は 2019 年 1 月 24 日(水)の予定です。

リリース情報に関するお問い合わせ
東北公益文科大学（広報担当）
TEL）0234-41-1111 FAX）0234-41-1133
E-mail）koho@koeki-u.ac.jp

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

資料１

Press Release

2018 年 12 月 26 日
東北公益文科大学

本学学生が 2018 ビジネスモデル発見＆発表会 東北大会において最優秀賞を受賞 全国大会へ

2018 年 11 月 27 日（火）、TKP ガーデンシティ仙台において開催された、「Challenge IoT Award 2018 ビジネスモデル発見＆発表会 東北大会」に本学の学生チーム”hyoi(ヒョーイ)”がエントリー。審査の結果、**最優秀賞である総務省東北総合通信局長賞**と ICT ビジネス研究会キャンパス賞を受賞し、**全国大会へ**の切符を手にしました。（キャンパス部門は 13 チームがエントリー）

「Challenge IoT Award 2018 ビジネスモデル発見＆発表会」は、全国の学生、一般企業、起業家から幅広く、優れたビジネスモデルや、そのアイデア・素材等を募集し、そのプレゼンに対し、総務大臣、中小企業庁長官、スポンサー企業等が表彰するとともに、その事業化と、人材育成・ネットワーキングを具現化する唯一無二のアワード（ICT ビジネス研究会 HP (http://ict.telesa.or.jp/2018bm-2.html)より）です。

現在、hyoi(ヒョーイ)のメンバーは 2019 年 3 月 14・15 日に行われる全国大会に向けてのビジネスモデルのブラッシュアップ、また実際にアプリを商品化するための開発、マーケティングを行っています。

『hyoi(ヒョーイ)』メンバー　８名

（本学４名、他大学生４名）
代表　渡邉　輝　（本学３年）
加藤 雄大（本学３年）
三浦 将太（本学３年）
井上 翔太郎（本学２年）
髙橋 佑熙（東北大３年）
亀田 直輝（山形大１年）
鈴木 萌斗（山形大１年）
齋藤 颯太（山形大１年）

東北大会表彰式の様子

お問い合わせ
広報担当　池田、武蔵
メール：koho@koeki-u.ac.jp
電　話：0234-41-1111（代表）

資料２

12 月 26 日　第 8 回情報交換会

チーム moreE

平成 30 年度　活動予定・実績（平成 30 年 12 月 21 日現在）

日　付	活　動　内　容
5 月 12 日	日向コミュニティセンターNicoNico マルシェ（販売）
7 月 21 日	鶴岡 山王ナイトバザール（販売）
7 月 22 日	東北公益文科大学 オープンキャンパス（販売）
7 月 28 日	鶴岡 南銀座夏祭り（販売）
7 月 29 日	日向コミュニティセンターNicoNico マルシェ（販売）
9 月 19、20 日	のぞみ福祉作業所訪問 ・売上げを届ける（上半期の売上 38,300 円の 8 割 30,640 円） ・職員、利用者の方々との交流 ・作業所の雰囲気を自分たちの目で見る
9 月 23 日	SAKATA MUSIC FESTIVAL（販売）
9 月 29 日	うきうき防災フェス 酒田青年会議所（販売）
10 月 20、21 日	東北公益文科大学 公翔祭（販売）
10 月 28 日	8 月発生の蔵岡地区水害検証会 ・戸沢村豪雨災害についての話し合いに参加
11 月 10 日	日向コミュニティセンター 秋祭り（販売）
12 月 15 日	東北学院大学 大学間連携災害ボランティアシンポジウム参加

資料２

12 月 26 日　第 8 回情報交換会

1 月 24、25 日	キャンドルナイトワークショップ in 公益大開催
2 月 25、26 日	キャンドルナイトワークショップ in 中町開催
3 月 11 日	キャンドルナイト開催（里仁館との共催） ・東日本大震災を風化させず、復興を応援する ・酒田中町でキャンドルを灯す
3 月中旬予定	今年度集めた募金を岡山県真備町へ直接届ける

◆　岡山県真備町へ届ける募金額 12,450 円

◆　下期のグッズ販売売上 30,550 円の 8 割 24,440 円をのぞみ福祉作業所へ届ける

◆　現在までのグッズ販売売上 68,850 円（上期 38,300 円、下期 30,550 円）の 2 割 13,770 円を戸沢村社会福祉協議会へ届ける

Mail: nozomoree711@gmail.com
（ 代表： 後藤 千花 ）

資料３

2018 年 12 月 26 日（水）
記者懇談会
Praxis

2018 年　Praxis（プラクシス）活動報告

１．Praxis の活動目的・目標

＜目的＞

山形県酒田市日向地区における長期学外学修プログラムの延長として、学生が主体的に地域へ足を運び実践しながら学修する。Praxis は「実践」という意味。

＜目標＞

地域の内と外を繋ぐ場づくり。主に、“地域の生活の理解”“自然資源の利活用”“関係人口の創出”を目指している。

２．今年度活動内容

- レストスペース「AL COFFEE」オープン（9/23～11/10）
  - ・鳳来そば２階のスペースをお借りして、「休憩所」としての役割をもつ場づくり。
  - ・学生自らが焙煎した豆を使ってコーヒーを淹れお客様に提供。
  - ・ノートを設置して、学生が不在の場合も訪れたお客さんとのコミュニケーションツールとして活用。
  - ・学生マジシャンによる、マジックやタロット占いで楽しんでもらうことも。
  - ・日向コミュニティ振興会主催の「Nico nico マルシェ」（７月 29 日開催）にて出張版「AL COFFEE」プレオープン、8 月 11 日（山の日）に鳳来そばにてプレオープン。

- 星空キャンプ（８/10）
  - ・日向地区の小学生を集め、日向コミセンで行ったイベント。（子ども会として実施）
  - ・グランドにテントを張り、満天の星空を鑑賞する。
  - ・その他にもカレー作り、マジックショー、花火、映画鑑賞などで楽しんでもらいつつ交流を深める。
  - ※当日は雨天のため、星空観賞はできませんでした。

- 公翔祭（10/20～10/21）
  - ・出張版「AL COFFEE」としての出店。
  - ・学生が作成した、日向地区＋Praxis の活動の PR 動画を上映。
  - ・日向を取り上げた雑誌を作成した。
  - ・日向の方の似顔絵イラストで人物紹介。

- 秋祭り（11/10）
  - ・日向コミュニティ振興会二大行事の一つである秋祭りに、出張版「AL COFFEE」として参加。
  - ・グッズや雑誌などを作成し販売した。
  - ・地元の方に協力してもらいコーヒーと一緒にデザートやお菓子を販売した。

➢ 「創作・制作活動」

・動画作成

→初めて日向地区を訪れた少年が、地区のイベントなどに参加しながら日向の良さを知っていくというストーリーを考え、Praxis のメンバー自らが出演し役を演じたり地区の方々に協力してもらいながら日向地区＋Praxis の活動の PR 動画作りに取り組んだ。各イベントなどで上映した。

・似顔絵イラスト制作

→日向の方々の似顔絵イラストを描き、レストスペース「AL COFFEE」やイベントの際に飾り、日向に住む方々や働く方々の人物紹介をした。「この場所にはこんな人がいるのか」と関心を持ってもらったり、日向の“人”に焦点を当てて人の魅力を伝えようと取り組んだ。現在は日向コミセンに展示してある。

・雑誌「ETHICAL（エシカル)」制作

→今回の雑誌は“日向でデートする”ことを想定し、日向の中で紹介したいスポット、お店、人などを「デートコース」に組み込み、実際にモデル役の二人にその場所に行ってもらい写真を撮り、雑誌の素材として活用した。その他にも、日向の方を取材しに行き、そこでの生活やその方の考え方などをまとめた「日向 diary」というページも設けた。雑誌は各イベントで展示や販売を行った。

３．今後の活動

➢ 鳥海山荘とのコラボ（11 月末～）

・鳥海山荘支配人の佐藤様より依頼を受け、宿泊客に向けて雪の壁に映し上映する動画作成。(日向地区・鳥海山などの紹介)

・宿泊プランのアイディア提供。(テーマ：「冬の日向体験 ―雪と光と味―」)

４．今後の活動方針・想い

➢ 日向に眠っている資源（物・味・人・考え方）を私たち学生が引き出し、その魅力を伝える手段を見つけ実践したい

・これまでは先輩方が、動画、雑誌などの手段を使って日向の魅力を伝えてきたが、来年度は私たちにできる新しいやり方で日向を知ってもらい、結果的に日向を元気づけたい。

・今年度の活動目標を来年度も継続していきたい。

・現三年生が来年度で卒業することでメンバーが激減してしまうので、新メンバーを増やしたい。

<代表者連絡先.>
氏名：遠藤小野花(えんどう　さやか)
所属：東北公益文科大学２年
e-mail : saya.0531a3@ezweb.ne.jp

資料４

酒田おもてなし隊活動について　　12 月 26 日情報交換会

1.　今年のおもてなし隊の活動について

・ＪＲ東日本、駅からハイキング
コースや案内するポイントを学生が企画し、それぞれの駅、周辺の地域、町の魅力を参加者に案内、伝える。

本楯駅ハイ（4 月 29 日）
藤島駅ハイ（5 月 13 日）
能代駅ハイ（8 月 4 日）
舟形駅ハイ（10 月 14 日）
日本遺産酒田駅ハイ（10 月 21 日）
余目駅ハイ（12 月 1 日）

・外国クルーズ船の受け入れ
酒田に寄港したクルーズ船の日本人、外国人観光客に酒田の町の紹介をする。
寄港した日時が平日もあり、参加したのは 4 回のうち 2 回

ダイヤモンドプリンセス（7 月 1 日）　海外の方が大半
コスタネオロマンチカ（8 月 2 日）　　日本の方が大半

・びゅうトラベルサービス、大人の休日倶楽部趣味の会旅行企画にてガイド随伴
おもてなし隊ＯＢ初代隊長、杉浦さんの企画（出羽三山）に 4 名がガイド、7 名がお出迎えとして参加した。

・平成 31 年度ＪＲ東日本ディスティネーションキャンペーンに向けてのプレ活動
主に駅でのお出迎え、お見送り活動。プレ DC は 12 月 16 日にて終了

2.　来年の活動について

・ＪＲ東日本、駅からハイキング
吹浦駅ハイ（6 月 16 日）
舟形駅ハイ（夏頃、詳細は未定）

資料４

・平成 31 年度ＪＲ東日本ディスティネーションキャンペーンに向けて

うわさプロジェクト

酒田市、酒田商工会議所、酒田市商店街連合会、酒田交流おもてなし市民会議、市民の連携によって、観光客のおもてなし、酒田市の活性化を図る。

2，3 月ごろ、聞き込み開始予定

過去、事例のない企画を考案中

3. 来年に向けて

来年で６年目を迎えるおもてなし隊

中原大隊長が酒田南高校の校長になったことによる隊の在り方の変化

自主性のある団体へ

現在、１年生 30 人、2 年生 10 人、3 年生 3 人合計 43 人に加え、新１年生を加えた大所帯をどのようにまとめていくか

お問い合わせ
酒田おもてなし隊　副隊長　芦野秀樹
メール　h.asshiy.1st@gmail.com

資料５

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

Press Release

2018年 12月 26日
東北公益文科大学

情報科目合同成果発表会」を開催します

本学では、オープンソースソフトウェアの使い方を学ぶ「情報リテラシー」や「基礎プログラミング」などの情報科目を、 2年次までの必修科目として開講。論理的思考や細やかな計算力を養うことをねらいとしています。

このたび、今年度の情報科目の学修成果である、卒業論文・卒論事前研究と情報特別選抜成果発表、「基礎プログラミングⅠ Ⅱ」で学生たちが作成したプログラミング作品の合同成果発表会を開催します。

- 卒論発表の部では、 4年間の集大成となる研究成果を、卒論事前研究発表では、 3年生による現時点までの研究成果を発表します。
- 基礎プログラミングの講義では、 2年生全員が 6～8人のチームに分かれ、チームごとに作品を作成。成果発表会では、予選を勝ち抜いた優秀作品を作成したメンバーがプレゼンし観客の投票により第 1位の作品を決定します。
- 普段の生活でも活用できそうな住まいや食に関するものから、大学生ならではのものなど、今年度もコンピュータに詳しくない方でも楽しめる作品が予想されます。

○日　時：2019年 1月 23日（水）
卒論・事前研究発表の部　9:00～17:00
基礎プログラミング成果発表の部　17:00～20:00
（途中入退場自由）

○会　場：本学酒田キャンパス 公益ホール大ホール

○参加料：無料（どなたでもご参加いただけます）

○申込・問い合わせ：情報科目合同成果発表会あて
Ｅmail　ruby-join@e.koeki-u.ac.jp（申込なしで当日参加も可能。お気軽にお越しください）

お問い合わせ
入試事務室 佐藤英美
電話）０２３４－４１－１１１７

資料 6-1

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

Press Release

2018年 12月 26日
東北公益文科大学

平成３０年度大学院公開講座　国際ビジネスコミュニケーション論」

英 語 が ち ょ っ と 苦 手 な あ な た に

～英語と日本語ってどう違う？

翻訳者の視点から、英語学習を考える：これで英語が少し身近に！

本学では、成長著しいアジアへのビジネス展開を通して地域経済に貢献する人材の育成を目的に、山形県寄附講座「アジアビジネス人材養成講座」を実施しております。このたび、本講座の科目の一つである「国際ビジネスコミュニケーション論」の授業のうち、関美和氏による講義を、学外の皆様に公開して実施することといたしました。

この公開講座では、ビジネス書籍の翻訳で著名な関先生から、英語学習についてお話しいただきます。

★ ポイント

●杏林大学准教授・翻訳家の関美和氏にご講義いただきます。
●第一線で活躍中の方から、直接お話を伺う、大変貴重な機会です。
●受講料は無料です。
●仕事をお持ちの方でも受講しやすい日曜日に開講します。

記

○日　　時：2019年 2月１０日（日）　１０：３０～１２：００
○会　　場：東北公益文科大学鶴岡キャンパス 大学院ホール
　　住所：山形県鶴岡市馬場町１４番１号）
○講　　師：関 美和 氏（杏林大学 外国語学部 准教授・翻訳家）
○受 講 料：無料

お問い合わせ・お申し込み
大学院事務室（鶴岡キャンパス）
電話）０２３５－２９－０５５５

資料6-1

Open Lecture
公開講座
参加費無料

International Business Communication

国際ビジネスコミュニケーション論

公益大大学院修士課程で2016年より開講している「国際ビジネスコミュニケーション論」では、グローバルにおけるマーケティング・コミュニケーションのマインドとスキルを学びます。
15回の講義のうち1回はゲストスピーカーをお招きして公開しており、今年は、ビジネス書籍の翻訳において活躍されている関美和氏にご講演いただきます。第一線で活躍中の方から直接お話を伺う、大変貴重な機会です。

英語がちょっと苦手なあなたに

～英語と日本語ってどう違う？
翻訳者の視点から、英語学習を考える：これで英語が少し身近に！

●日時

2019年2月10日(日)
午前10時30分～12時00分

●会場

東北公益文科大学
鶴岡キャンパス 大学院ホール
住所：鶴岡市馬場町14番1号
電話：0235-29-0555
※遠隔講義システムを利用して、山形市内でも受講が可能です。ご希望の方は申し込み前にお問合せください。

●講師

関（せき）　美和（みわ）氏
杏林大学 外国語学部 准教授・翻訳家

＜略歴＞　慶應義塾大学文学部・法学部卒業。
株式会社電通、スミスバーニー勤務の後、ハーバード・ビジネススクールでＭＢＡ取得。モルガン・スタンレー投資銀行を経てクレイ・フィンレイ投資顧問東京支店長。『ゼロ・トゥ・ワン』、『ファクトフルネス』など、ベストセラー翻訳書を多数翻訳。

●申し込み・問い合わせ：

申し込み方法	電話・FAX・Eメールのいずれかにより、お申し込みください。
申し込み情報	「国際ビジネスコミュニケーション論」申し込み ①漢字氏名　②かな氏名　③住所　④電話番号　⑤メールアドレス　⑥ご所属先名称(企業等)
申し込み締切	2019年2月6日（水）（人数により申し込みを締め切らせていただく場合がございます。）
申し込み先 問い合わせ先	東北公益文科大学 鶴岡キャンパス　大学院事務室 Tel: 0235-29-0555　Fax: 0235-29-0556　E-mail: gs@koeki-u.ac.jp 電話の受付は、月曜から土曜の午前9時00分～午後5時00分です。（祝日および12月29日から1月3日までの間は閉室です。）

資料 6-2

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

Press Release

2018年 12月 26日
東北公益文科大学

大学院特別講座
ハッピーキャリアを描くには

人生 100年時代を迎え、わたしたち一人ひとりにとって、仕事と生活のバランスのとれた充実した人生を展望することが必要になっています。

東北公益文科大学大学院では、「ハッピーキャリア」という、新しい時代のキャリア形成のあり方を学びながら、男女でともに語り合い、ともに考えるためのワークショップを開催します。

★ ポイント

●ワークショップ形式にて行う特別講座です。
●性別を問わず、ご参加いただけます。
●受講料は無料です。
●仕事をお持ちの方でも受講しやすい日曜日に開講します。

記

○日　　時：2019年 2月10日（日） 13:30～15:00
○会　　場：東北公益文科大学鶴岡キャンパス 大学院ホール
（住所：山形県鶴岡市馬場14番1号）
○講　　師：伊藤 眞知子（東北公益文科大学 公益学研究科長・教授）
○受 講 料：無料

お問い合わせ・お申し込み
大学院事務室（鶴岡キャンパス）
電話）０２３５－２９－０５５５

東　北　公　益　文　科　大　学　大　学　院

資料6-2

Special Lecture
特別講座
参加費無料

ハッピーキャリアを描くには

～ともに考え、語り合うワークショップ～

人生100年時代を迎え、わたしたち一人ひとりにとって、仕事と生活のバランスのとれた充実した人生を展望することが必要になっています。

「ハッピーキャリア」という、新しい時代のキャリア形成のあり方を学びながら、男女でともに語り合い、ともに考えませんか。若い世代の皆さんのご参加をお待ちしています！

●日時

2019年2月10日(日)
午後1時30分～午後3時00分

●会場

東北公益文科大学
鶴岡キャンパス 大学院ホール
住所：鶴岡市馬場町14番1号
電話：0235-29-0555

●講師

伊藤 眞知子（いとう まちこ）
東北公益文科大学
公益学研究科長・教授

＜専門＞社会学・女性学
＜略歴＞国立女性教育会館事業課研究員を経て2001年本学助教授、2006年より教授、2007年～2010年5月副学長、2016年4月より現職。日本社会学会、日本公益学会、日本家族社会学会、日本社会教育学会会員。2012年山形県男女共同参画社会づくり功労者賞、2016年男女共同参画づくり功労者総理大臣表彰受賞。鶴岡市総合計画審議会会長を務める。

●申し込み・問い合わせ：

申し込み方法	電話・FAX・Eメールのいずれかにより、お申し込みください。
申し込み情報	「ハッピーキャリアを描くには」申し込み ①漢字氏名　②かな氏名　③住所　④電話番号　⑤メールアドレス　⑥ご所属先名称(企業等)
申し込み締切	2019年2月6日（水）（人数により申し込みを締め切らせていただく場合がございます。）
申し込み先 問い合わせ先	東北公益文科大学 鶴岡キャンパス　大学院事務室 Tel: 0235-29-0555　Fax: 0235-29-0556　E-mail: gs@koeki-u.ac.jp 電話の受付は、月曜から土曜の午前9時00分～午後5時00分です。（祝日および12月29日から1月3日までの間は閉室です。）

資料 6-3

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

Press Release

2018年 12月 26日
東北公益文科大学

本学の大学院生が書籍を出版しました

本学大学院生で NPO ぷらっとほーむ共同代表の滝口克典さんが書籍『若者たちはヤマガタで何を企てているか？　～ポスト３・１１の小さな革命者たちの記録～』を出版しました。

★ ポイント

●山形県で新しい生き方を見つけた 50人の若者の活動と、彼／彼女たちの活動を理解するうえで著者が勧める書籍を紹介しています。

●著者による「地方の若者活動の強み」を巡る分析も記されています。

記

●書籍名　若者たちはヤマガタで何を企てているか？
～ポスト３・１１の小さな革命者たちの記録～

●著者　滝口 克典（NPO ぷらっとほーむ 共同代表
東北公益文科大学大学院 大学院生）

●出版元　書肆犀（上山市）

●定価　1,500円（税別）

お問い合わせ
大学院事務室（鶴岡キャンパス）
電話）０２３５－２９－０５５５
メール）gs@koeki-u.ac.jp
2018年 12月 29日～2019年 1月 3日の間は大学院事務室は閉室です

資料 7

東北公益文科大学
Tohoku University of Community Service and Science

Press Release

2018 年 12 月 26 日
東北公益文科大学

<<東北公益文科大学 Koeki Kids Project>>学生が遊佐町立遊佐小学校で授業を行います

このたび、本学のプロジェクト型応用演習「Koeki Kids Project (b)」の学生が授業の中で修練してきた「小学生を対象にした『公益を考える授業』」の実践として、遊佐町立遊佐小学校の 4 年生を対象に授業を行うこととなりました。

この授業の指導案と当日のテキスト作成については、Koeki Kids Project の学生自らが行い、遊佐小学校の先生方と相談を重ね、小学生に「公益」をどう考えてもらうか検討し、開発しました（本学オリジナルのものです）。

★ ポイント

- Koeki Kids Project は、東北公益文科大学の学生が学習、研究に取り組んでいる「公益」について、小学生にわかりやすく伝えるための授業を開発し、実践することを目的として 2010 年より継続的に活動をしています。
- 遊佐町立遊佐小学校における授業実践は今回で 3 回目となります。
- 今回は身近な学校生活から公益を考える授業を考案した学生 2 名（2 年生女子 1 名、3 年生男子 1 名）が授業を実践します。（当日はサポーター学生（3 名）も参加します。）

記

○日　時：2019 年**1月16日（水）13:30～14:15**

○会　場：**遊佐町立遊佐小学校（遊佐町吉出和田 13）**

○内　容：**東北公益文科大学 Koeki Kids Project の学生 2 名（2・3 年生）による遊佐小学校 4 年生を対象とした「公益を考える授業」の実践**

お問い合わせ
教務学生課
電話）０２３４－４１－１１１６

資料8

東北公益文科大学　平成 30 年度「地域福祉演習Ⅱ・Ⅳ」
酒田市立宮野浦小学校 5 年生対象　認知症サポーター養成講座実施企画書

2018 年 12 月 7 日
東北公益文科大学　地域福祉演習Ⅱ・Ⅳ受講生
担当教員：澤邉みさ子、武田真理子

１．目的・ねらい

平成 30 年度の東北公益文科大学公益学部「地域福祉演習」では、過年度の宮野浦学区の地域住民への調査等の結果から、同地域において「認知症についての関心を高め、理解を深めるためにはどうしたら良いか」という課題を取り上げ、その解決策を探るべく、酒田市全域の地域包括支援センターへのヒアリング調査や認知症に関する学習を重ねてきた。その結果、認知症への理解を宮野浦学区全域で広めて行くためには、まず、子どもたちの理解を広めることが有効であり、宮野浦小学校のご理解とご協力を得て、小学生を対象とした「認知症サポーター養成講座」を実施させて頂きたいと考えている。認知症の症状に最初に気づくのは家族であることが多く、子どもたちの認知症への知識と理解の向上は地域にとっても望ましいことである。本講座では、小学生との距離が近い大学生が様々な工夫を取り入れて授業を行うことにより、対象児童に楽しく、わかりやすく学習をして頂くことを目指したい。

２．日時・場所

日時：2018 年 1 月 22 日（火）　8：45～10：20　※8:45～9:30、9:35～10:20 の 2 回実施
場所：酒田市立宮野浦小学校　多目的ホール

３．対象

酒田市立宮野浦小学校 5 年生（60 名）及び教員

４．内容（案）

❍自己紹介（代表者、名札を付ける、自己紹介シートを配布する）＜2 分＞
❍導入のお話　＜5 分＞
・「日本の高れい社会と『認知症』」
・認知症は誰もがなりうる病気である
❍認知症の理解　＜10 分＞
・「認知症って何だろう」（クイズ形式）
・「イソギンチャクにたとえると」（中核症状の説明、図や模型を使って説明する）
❍接し方に対する理解　＜20 分＞
・寸劇を通して周辺症状（BPSD）と接し方に関する説明を行う

（周辺症状は環境づくりによって緩和できるということを伝える）
・班ごとに話し合いをしてもらう
❍認知症サポーター養成講座の説明、オレンジリングの意味の説明　＜5 分＞
❍感想・まとめ　＜3 分＞

５．授業実施者
東北公益文科大学　3 年　工藤朋美、佐藤映樹、冨樫美沙子
4 年　遠藤麻佑、柏倉彩、門脇茉莉香、佐藤真梨、難波万琴

６．その他
・先生方へのご協力のお願い（寸劇等へのご協力、ご出演について）
・学生の参加の方法について（進行役以外は、児童と一緒に班ごとに着席させて頂きたい）